

る思いやりを持つ事が出来れば、今以上に明和町は明るく元気な町に変わっていくと思います。

将来、明和町に住んでいる人々の生活の様子が変わっても、今の穏やかな温かい気持ちを持ち続けて過ごす事が出来れば、明和町の持つ良さは変わらず二十年、三十年でも、永遠にこのままの私の好きな明和町でいられると思います。

新しく、明和町を訪れてくれた人、そして、生まれてくる仲間を温かく迎え、みんなで明和町の良い所をどんどん広めていきたいと思っています。

小学生の部 テーマ
「私たちの町の未来」

最優秀賞
蓮見 美帆さん



(東小6年)

あたたかい明和

二〇一三年。私は二十二才。ひまでする事がないので明和を散歩することにした。

「よし。十年前と比べながら歩こう。」
まずは家の前。昔と変わらず田畑が広がっている。

「あつ。そういえば、宿題しながらこの田んぼとか畑とか見ていたなあ。田畑を見るとなぜかホッとするもんなあ。」

気が付けば公園に来ていた。昔は町の大きな公園といえはふるさとの広場と大輪公園くらいだった。今は小さい子からお年寄りまでが楽しく

一緒に遊べる公園がたくさんできた。「久しぶりに子供に戻った気分が遊ぼう。」

と、遊んでいると小さい子が「こんにちば。」

とあいさつをしてくれた。小さい子もこんなにしっかりとあいさつできるんだと思いつつながら

「こんにちば。一人で来たの?」
「うん。毎日一人で来てるよ。」
と答えた。

「ゲームはしないの?」

「うん。そんなのつまらない。公園の方がずっとおもしろいよ。」

「そっか。じゃあね。」

昔は男の子はテレビゲーム、女の子は買い物などで遊んでいて、外で遊ぶことはあまりなかった。でも公園が出来るたびに、どんな公園だろう、と興味があわき、外で遊ぶ事の楽しさを教えられたのだらう。

次に公民館へ行った。昔のように子供でも楽しめる教室を開いていて、そこでは、学校や年が違いう友達ができる、好評らしい。私も小学生のころ公民館を通して友達をつくることのできた。また、祭りや土手の清掃活動などふれ合いを深める行事も町にはたくさんある。

家に帰って明和町の事を考え直した。明和は昔と変わらず緑豊かな町。今日会った子のようにあいさつをしてくれる人がたくさんいる町。外に出てみんなと仲良くできる、年令や学校の違いを問わずに友達もできる

すてきな町だ。私が子供の時、緑の減少などの問題もあった。でも、そんな心配も消えていた。他の市・町・村そして外国にも自まんでできる

最高の町だ。

「この町に住んでいて良かったなあ。」

優秀賞
蓮見 悠さん



(西小6年)

私たちの町の未来

私が想像する明和町は何通りかあります。例えば「自然豊かな町」「町設備が増える」「名産物が増える」でも私の一番の理想は「町民みんなが豊かな心を持つ」ということです。理想も想像も、かなえたいのでもせなかなかそうはいきません。でもせめて、町民みんなに「豊かな心」を持つてほしいのです。

私たちの小学校の高学年は、男女の会話がありません。理由は「男子なんかと話したって意味がない。」「別に自分には関係ない。」というのが現実です。低学年のころは、男女の会話はもちろん休み時間も男女平等に遊んでいました。きつとこの頃は「豊かな心」を持っていったのだらう。と思います。もう高学年になると、低学年みたくにはなれないのだらうか。低学年のように素直な気持ちになれないのだらうか。なれない人もいます。でも「一人一人がこの気持ちを持っていれれば誰でも豊かな気持ちになれる。」と思います。思っているもなかなか実行できない人もいます。でもこの気持ちを忘れなければ、いつか「豊かな心」を持つことができるのです。きつと未来は、「男女の会話が絶えず、豊かな心の子がたくさん。」となることを願っています。

町の中を見てみると、成人した人のほとんどは豊かな気持ちがないの

かな?」と思いました。理由は三点。一つは「タバコやカンのポイ捨て」。一つは「老人への態度」。一つは「施設の使い方」です。まずタバコやカンのポイ捨ては、捨てたい気持ちはわかります。でも捨てた以外の人は迷惑な話なのです。ポランティアの人が拾ってくれなかったら明和町は汚れていくだけです。ポランティアの人がどんなに大変な思いで拾ってくれてるのか、と考えると捨てる人がいなければいいと言うことしか思い浮かびません。次に老人へ対しての態度ですが、この間の下校中、重

そうな荷物を持ったおばあさんがいました。そこへ通りかかった男の人の言葉。それは、「じゃまだよ。ばあさん。」そういうとさっさとどこかへいってしまつたのを見かけました。本来なら「荷物を持ってあげようと思つたけれど、私が帰る方向とは違つたので持つてあげられません」でした。最後の一つ、施設の使い方は、公民館へ行った時でした。掲示物が落ちていたのにもかかわらず、けつたりふんでいつてしまつたりしているのを見ました。ずっと前になりませんが、図書館に行つたときも本をけつてもどしてあげるのが常識。でも今、明和町の人には豊かな心が失われているのです。この三点もきつと「豊かな心」の持ち主ならやらな

いことだと思つています。

今はこんな明和町でも、いつかは住民全員が「豊かな心」を持つてくれると信じています。たとえ何年何十年かかっても、私は「豊かな心」を持つ努力をし、みんなにも努力してもらえようようにしたいと思つています。「豊かな心」でいい町に進化できるのだから。